

## くまびょう

123号

NEWS

くまびょう  
NEWS2007年  
9月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

## 手術室を増設しました



麻酔科部長

江崎 公明

本院は先生方の御指導、御支援の下に開放型病院として病診連携に、そして救急医療に積極的に取り組んでいるところです。手術センター・麻酔科では、先生方より患者様を安心して紹介して頂くように、また急増していく緊急手術のために手術室のハード・ソフトを改善してまいりました。具体的には鏡視下の食道および肺手術などの特殊手術や患者自体の重症化に対して、モニター整備と共に分離肺換気、麻薬による完全静脈麻酔、PCPS（補助体外循環）などを駆使して生

命維持と手術を行い易い環境を作ることにつとめてきました。さらに安全な麻酔の保障と患者手術満足度を上げるために麻酔深度計BISの導入や持続硬膜外麻酔による術後疼痛緩和に配慮を行っています。

現在、当院手術センターには手術室6室、手術台8床があり、年間約4,000例の手術と3,100例の麻酔症例が実施されています。年間の緊急手術症例数も約550件あり、更に増加の傾向にあります。御紹介頂いた患者様の手術がさらに円滑、迅速に行えるように、今般、手術室1室を増設し、9月1日より7室9床で運用を開始致します。

手術センター・麻酔科は、今後とも先端医療、外傷・急性冠不全・脳出血などの救急医療（緊急手術）から、患者様の事情に合わせた日帰り手術に至るまで万全を期していきたいと思えます。御指導、御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第23回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

標記連絡会が下記の要領で開催されます。多数の御参加をお待ち致します。

- |    |   |
|----|---|
| 日時 | 2007年9月26日(水) 19時～21時   |
| 場所 | 〒860-8554 熊本市手取本町8-9 テトリア熊本ビル くまもと県民交流館パレア<br>TEL 096-355-4300(代)                                     |
| 内容 | 1. 開放型病院連絡会総会(10階 パレアホール)<br>1) 紹介症例の呈示 2) パネルディスカッション<br>2. 懇親会(7階 鶴屋ホール) 懇親会の会費5,000円は、当日受付で申し受けます。 |

なお、当日会場にて新規登録医の申請もできます。登録医証の発行をご希望の先生は、会場で写真撮影を実施させていただきます。なお、お車でご出席される先生は、城内プール跡地の当院専用駐車場をご利用下さい。その場合、駐車券を会場にお持ち下さるようお願い致します。

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課(担当:西田、牧野)  
〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501(内線390)



## PET検査って何だ？

医療法人光陽会  
魚住クリニック  
院長 魚住 秀昭



当院は熊本市街から南に3km出水7丁目にある無床診療所です。市内の基幹病院から車で30分以内とご紹介頂くにはなかなかの立地条件なのですが悩みは“道”と“水”です。ご多分に漏れず今年の集中豪雨時はクリニックに通じる「幹線道路＝生命線」が水に浸かり診療ができない日がありました。

さて、当院は治療を行わず、画像診断それもFDGPET検査に特化したクリニックです。自前で検査薬“FDG”を作るサイクロトロンと合成設備をもち、PET装置2台、マルチスライスCT1台、超音波装置1台を備えています。

主となるPET装置は高価であり、CTやMRIと違い保険診療には厳しい制約が設けられています。紹介率20%以下の医療機関では診療報酬が減額され、共同利用によって医療資源を有効に使うことが方向づけられています。この共同利用を大きな柱として2003年8月オープンいたし、設立から満4年が経とうとしています。まわりの皆さんからは「予約がいっ

ぱいだろう」と声をかけて頂きますが未だかつて3日先まで予約が詰まったことはありません。設立当初は推して知るべしでした。その理由として一つはPET検査が一般を含め医療に携わる方もよくご存じではなかったこと、また熊本でPET検査のできる施設があるということの周知がうまくいってなかったことなどが考えられました。最近はマスコミで取り上げられることも多く、検査の知名度は徐々にあがってきているようです。

診療は病院やクリニックから紹介頂いた患者さんの検査と一般の方々を対象とした「がん検診」を実施しています。従って、もっぱら国立病院機構熊本医療センターの各診療科の先生方からも紹介を頂いて、検査を行っている医療機関ということになります。従って検査が終了したら、当クリニックで得た医療情報をいかに正確に早くお手許に届けるかに職員一同努力をしているところです。

PET検査は臨床の間では特に悪性腫瘍のステージ診断、転移・再発診断に有効です。欧米ではPET firstといわれており、癌診療の様々なフェーズで頻りに利用されています。本邦では保険診療の制約上なかなかそこにたどり着くには時間が必要かもしれません。再発・転移を検索するときは受診者にとって安全で、短時間である程度の方向性をとらえることのできるすぐれた検査だと思います。

最後にこのたびは「くまびょうニュース」に掲載する機会を与えて頂き、誠にありがとうございました。貴院の地域中核医療機関としての発展を祈念いたしますとともに当クリニックはPET検査を通じ、地域の癌診療の一端を担うべく努力をして参る所存です。

今後ともPET検査を診療の一翼に加えて頂けるようよろしくお願い申し上げます。

## ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで



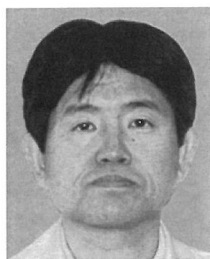
陣内 良映

泌尿器科全般、副腎疾患  
神経因性膀胱、鏡視下手術日本泌尿器科学会認定専門医  
日本泌尿器科学会認定指導医  
日本泌尿器科学会評議員

中西 寿朗

泌尿器科一般、悪性腫瘍

日本泌尿器科学会認定専門医



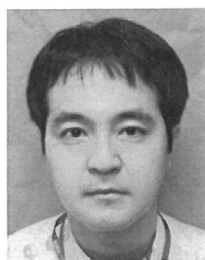
土岐 直隆

泌尿器科全般、尿路性器腫瘍  
神経因性膀胱日本泌尿器科学会認定専門医  
日本泌尿器科学会認定指導医  
日本泌尿器科学会評議員

菊川 浩明

泌尿器科全般、尿路性器腫瘍  
鏡視下手術日本泌尿器科学会認定専門医  
日本泌尿器科学会認定指導医  
日本泌尿器科学会評議員  
身体障害者福祉法認定医（膀胱）

瀬下 博志

泌尿器科全般、尿路性器腫瘍  
内視鏡手術日本泌尿器科学会認定専門医  
日本泌尿器科学会認定指導医  
日本泌尿器科学会評議員  
身体障害者福祉法認定医（腎臓）

山口 隆大

泌尿器科一般、内視鏡手術

日本泌尿器科学会認定専門医

数276件（経尿道的手術120件、腎悪性腫瘍手術20件、膀胱全摘+尿路変更15件、前立腺精嚢悪性手術26件など）、2001年に開始した鏡視下副腎・腎・尿管手術も60例に達しています。

## 研究実績

九州管内の国立病院機構5施設において、代表的な泌尿器科疾患クリティカルパスの施設間における比較検討をしています。

最近、膀胱全摘後の尿路変更術としてストーマの不要な自然排尿型新膀胱形成術を手がけており、新膀胱の機能について学会等で報告しています。

前立腺癌の診断において、血中PSAと共に、尿中の様々なプロテアーゼ活性を組み合わせ、より精度の高いスクリーニングを確立すべく熊本大学医学部分子病理部と共同研究を予定しています。

## ご案内

外来診察医は（月）（木）：陣内、土岐、（火）（金）：菊川、瀬下、中西、（水）：担当医です。

毎月第2火曜日午後7時より本館2Fカンファレンスルームにおいて放射線科と合同で症例検討会を行っています。登録医の先生方の参加も多く、ご紹介頂きました患者様の経過報告なども併せて行っています。興味ある症例、診断に迷う症例等ありましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

## 診療内容と特色

尿潜血精査から尿路・性器悪性腫瘍、小児泌尿器科、尿失禁・下部尿路機能障害まで、泌尿器科全般を行っています。また、救命救急センターとも連携し泌尿器科救急疾患にも対応しています。

当院泌尿器科は伝統的に尿路性器腫瘍（腎細胞癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌）を得意としており、特に膀胱癌を中心とした尿路上皮腫瘍は症例数・手術数においても国内で有数です。

## 診療実績（2006年度の実績）

外来新患者数1,021名。新入院患者数635名（腎細胞癌24例、腎盂・尿管癌15例、膀胱癌118例、前立腺癌127例、精巣癌3例、前立腺肥大症31例、尿路感染症46例、尿路結石79例、神経因性膀胱8例など）。1日平均在院患者数22.7名、平均在院日数13.0日。手術件

# 医学シリーズ

## No. 148 血液・膠原病内科 (No.4)

### 最近のトピックス

#### 複数臍帯血移植



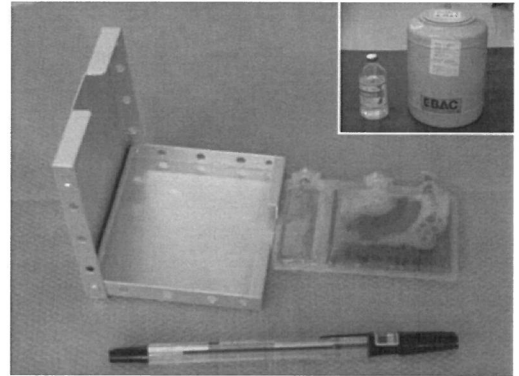
副院長  
(臨床研究部長併任)

河野 文夫

臍帯血移植は、骨髄移植とともに造血幹細胞移植と呼ばれ、白血病などに対する有力な治療法です。臍帯血移植は1989年 Gluckman らによる成功以後、1992年 New York 血液センターに臍帯血バンクが設立され（日本では1995年）、以後、小児に対しての臍帯血移植が急速に普及しました。成人に対しては当院が1998年、本邦初の臍帯血幹細胞移植を施行しました。その後、非血縁者間臍帯血移植数は増加し、今では、骨髄移植に匹敵するほどになっています。骨髄移植を必要とする患者で血縁者間に HLA 適合ドナーが見つからない場合、骨髄バンクからの非血縁者間骨髄移植を考慮しますが、コーディネート期間が長いことが最大の問題点です。一方、臍帯血は、すぐに移植できる利点がある反面、量が少ないのが欠点であり、成人では生着不全を起こしやすいことが知られています。これを解決する手段として、複数の臍帯血を同時に移植する方法が考えられました。複数臍帯血移植を初めて行ったのは中国で、1994年に実施しました。その後2001年、米国ミネソタ大学が追試し、日本でも「日本臍帯血バンクネットワーク」の協力を得て、2002年7月から複数（2人）の臍帯血移植が試みられ、安全性が確認されました。複数臍帯血移植では、単独の臍帯血移植よりも生着が早く、2週間ぐらいでどちらか一方が優位となり生着しますが、もう一方は消えてしまいます。白血球の型である HLA が、患者に近い方が生着する傾向があります。正確な機序は不明ですが、複数移植は免疫学的に見て、お互いに刺激し合って細胞をより増殖させる方向へ向かっている可能性があります。

最近、本邦では、複数臍帯血移植の有用性、有効性

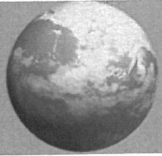
を目的として第2相試験が開始されました。当院血液内科もこの研究に参加しており、適格症例には積極的に施行予定です。この研究で、成人での臍帯血移植が、より安全に施行可能となれば、臍帯血移植のさらなる増加が予測されます。



臍 帯 血

#### 国立病院機構熊本医療センター内科における 造血幹細胞移植のあゆみ

1991	県内初の同種骨髄移植開始（2月21日） 無菌室1室設置（9月）、クリーンベッド購入（3台）
1992	本邦初の骨髄液の海外搬送（九州骨髄バンク） （本院で骨髄液を採取し、ドイツ・ジュセルドルフへ空輸して移植した）
1993	自己末梢血幹細胞移植（PBSCT）の開始
1994	骨髄バンク（財）での、非血縁ドナーによる同種骨髄移植の開始（1994年度2例施行）
1995	同種末梢血幹細胞移植（PBSCT）の開始
1996	固形癌（精巣腫瘍）への自己PBSCTの開始 年間の造血幹細胞移植数25例に達す
1998	本邦初の成人の臍帯血幹細胞移植を施行
2000	ミニトランスプラント開始 （2000年度2例）
2004	単行本“造血幹細胞移植の看護”を南江堂より出版
2006	同種移植数300例を超える 過去3年の年間平均同種移植数 全国6位にランクされる
2007	造血幹細胞移植数500例に達す



# 国際医療協力

## 平成19年度 第4回『ワクチン予防可能疾患の疫学及び対策セミナー』コース

国立病院機構熊本医療センターは、国内唯一の国際医療協力基幹施設として、JICA（国際協力機構）、ACIH（国際保健医療交流センター）及び熊本県と連携し、積極的に国際医療協力を推進しています。

2007年6月11日より7月22日まで「平成19年度第4回ワクチン予防可能疾患の疫学及び対策セミナーコース」にエチオピアをはじめ7ヶ国8名が、当院の教育研修棟に宿泊しながら研修を行いました。

本コースが修了した時、参加者は自国のポリオ、麻疹、風疹、ジフテリア、破傷風等のワクチンで根絶また効果的な制圧が可能な疾患に対し、その根絶計画のマネージャーとしてプログラムの計画、指導、管理、

評価をする能力を身につける事を目的としています。

（文責：庶務班長 牧野 功）



## 2007年度 看護師再教育研修を終えて

2007年7月16日から20日までの5日間、「潜在看護師の再開発を行い、看護師への復帰の手がかりにする」という目的で研修を行いました。今年度は8名の参加があり、2003年度から始めて4年目になりますが、今までで最多の人数でした。

開講式では学校長から励ましの言葉と共に、医療の質の向上のための取り組みについて講義があり、研修生は熱心に耳を傾けていました。研修生は離職しての年数が6年から22年でしたが、講義・技術演習・病棟実習を経ていく中で昔の記憶がよみがえり、自然と体も動いていました。最初は緊張した表情でしたが、次第にいきいきとなり、頼もしい姿がありました。さすが「昔取った杵柄」だと思いました。研修を終えての所感として「医療は進歩しており不安だったが、昔の

記憶がずっと蘇ってきて、看護師の頃の自分に返ることができ嬉しかった。看護の原点は何も変わらないと感じた。」「講義で受けた内容がそのまま実習で確認できたので有意義であり、楽しく実践できた。今後現場に戻りたいと思った。」「電子カルテやクリティカルパスを見て、ケアの向上につながっていると実感した。また点滴のダブルチェックなど医療安全の取り組みを学んだ。」という声がありました。皆さん家族の協力を得ての5日間の研修でしたが、充実感を感じて頂けたようです。今後も学習を続け、現場復帰への手がかりにして欲しいと感じました。

研修を受け入れた側としては、「患者に対する言葉掛けや学ぼうとする姿勢から熱意が窺えた。研修生の勇気に看護師も刺激された。」「医療現場は方法が変わっているだけで、看護の本質はいつまでも変わらない。研修生から力をもらった。」などの意見があり、研修生の熱心に学ぶ姿勢に刺激を受け、良い相互作用になっていたと思います。

今回研修を終えた皆さんには、さっそく当校のナースバンクに登録をして頂きました。何かの機会にお声をかけて頂ければ幸いです。

今回の研修でご協力頂きました皆様に感謝し、次年度は更に充実した研修にできるよう取り組みたいと思います。

（国立病院機構熊本医療センター附属看護学校  
担当教員 荒木美佐子）



研修生の実習風景

## 研修医レポート

### 心臓血管センター

#### 循環器科

あか いけ きみ たか  
赤 池 公 孝



はじめまして。2007年4月より2年間の国立病院機構熊本医療センター専属のプログラムにて研修をさせて頂いている赤池公孝と申します。早いもので研修が始まり半年近くが経ちました。4月～5月にかけて呼吸器内科、6月～7月にかけて神経内科、8月からは

循環器内科を回らせて頂いています。各科にて様々な特色があり、悪戦苦闘の日々を送っています。

その中で手技の大切さはもちろんのこと病態をはじめとして、検査や治療方針、他科へのコンサルトを含めた考えることの重要性を感じております。今までは目先の症状への対処に翻弄され一喜一憂していましたが、今後はもう少し病態や周囲の状況を把握し、その上での対応が出来るように努力して行きたいと考えています。また20名という多くの同期生と先輩方から、色々な考え方に触れることができ、友人としての面と同時に、自分に足りない部位を垣間見る事ができ医者として、一社会人として日々努力の必要性を痛感しています。

上記にも記しましたが研修が始まり半年近く経ちましたが、未だに未熟な部分ばかりであり、多くの方々にご迷惑をおかけしていますが、今後とも指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。

### 呼吸器センター

#### 呼吸器内科

かな さわ ゆう こ  
金 澤 侑右子



はじめまして。2007年4月から、国立病院機構熊本医療センターの初期臨床研修でお世話になっております金澤侑右子と申します。この春から社会人1年目として新しいスタートを迎えました。最初のオリエンテーションでは、まだ学生気分の抜けていない状態の私にとって緊張の連続で、身の引き締まる思いであり、病院の仕組みは勿論のこと、社会人としての自覚や常識、忘れてはならない心構えなど、一から教えて頂きました。1年目の前半は内科研修であり、消化器内科から始まりました。初めて患者様を担当し、当然のことながら学生のBSLとは比較にならないほど自分自身の言

動の一つ一つが患者様にとって大きなものであり、その責任の大きさを痛感しました。エコー検査や内視鏡検査など、どんどん実践させてもらいましたが、検査に臨んでは、安全に且つ見逃しが許されないという緊張感を厳しく指導頂きました。6、7月は血液内科での研修でしたが、疾患の特殊性もあり、多くの患者様が自分自身の病気について学習されており、今自分がどのような状況にあるのか理解されたうえで病気と闘っておられる姿勢を目の当たりに感じました。

そして現在、呼吸器内科で研修させて頂いております。多くの患者様を担当させてもらい、治療方針から治療効果の評価ならびに退院に向かう計画まで、自分で考えて主体的に行動できるように指導頂いております。

やっとな病院のシステムにも慣れてきたつもりですが、先生方や看護師さんはじめ関連部署の皆様にご迷惑をお掛けすると思います。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

# ■ 研修のご案内 ■

## 第215回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]  
[日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定]

日時▶2007年9月8日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「日常診療におけるステロイド療法」

座長 熊本市医師会 中村 正

- |               |                        |       |
|---------------|------------------------|-------|
| 1. リウマチ性多発筋痛症 | 国立病院機構熊本医療センター血液・膠原病内科 | 長倉 祥一 |
| 2. 皮膚科領域      | 国立病院機構熊本医療センター皮膚科      | 加口 敦士 |
| 3. 副作用について    | 国立病院機構熊本医療センター内科部長     | 清川 哲志 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第104回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)  
[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶2007年9月10日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

- |                               |                            |       |
|-------------------------------|----------------------------|-------|
| 1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧           | 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科        | 森松 嘉孝 |
| 2. 持ち込み症例の検討                  |                            |       |
| 3. 症例呈示「特異な発育状態を示した食道腫瘍の一例」   | 国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 | 柳澤 哲大 |
| 4. ミニレクチャー「HIV感染症を疑う臨床所見について」 | 国立病院機構熊本医療センター血液・膠原病内科     | 榮 達智  |

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいませようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL:096-353-6501 (代表) FAX:096-325-2519

## 第82回 最新医学の知識講座 (無料)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶2007年9月19日(水)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 熊本大学大学院医学薬学研究部環境保健医学教授 上田 厚

「環境医学分野における健康影響評価 (Health Impact Assessment) の最新知見」

久留米大学医学部環境医学教授 石竹 達也

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第72回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]  
[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶2007年9月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

- |                                    |                        |           |
|------------------------------------|------------------------|-----------|
| 1. 糖尿病性腎症の患者におけるHbA1cの測定結果についての注意点 | 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科     | 富田正郎、宮中 敬 |
| 2. 血糖コントロールの悪化から膵臓癌が判明した2型糖尿病の一例   | 熊本市医師会熊本地域医療センター代謝内科   | 笹原 誉之     |
| 3. 当科入院薬剤性低血糖患者の特徴に関する解析           | 国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科 |           |

北田真己、市原ゆかり、児玉章子、豊永哲至、高橋 毅、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線705

## ■ 第86回救急症例検討会開催日変更のお知らせ ■

9月26日開催を予定していましたが第86回救急症例検討会につきましては**10月4日(木)**開催に変更になりました。大変ご迷惑をおかけ致しますが、日程調整のうえ御参加頂きますよう御案内申し上げます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

2007年

# 研修日程表

9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修ホール	会議室	その他
3日(月)			8:00 MGH 症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
4日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
5日(水)			17:00 消化器疾患カンファレンス C
6日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
7日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
8日(土)	15:00~18:00 第215回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定] 座長 熊本市医師会 中村 正 「日常診療におけるステロイド療法」 1. リウマチ性多発筋痛症 国立病院機構熊本医療センター血液・膠原病内科 長倉 祥一 2. 皮膚科領域 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 加口 敦士 3. 副作用について 国立病院機構熊本医療センター内科部長 清川 哲志		
10日(月)	19:00~20:30 第104回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH 症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
11日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
12日(水)	13:00~17:00 日本医療マネジメント学会主催 平成19年第1回クリティカルパス実践セミナー in 熊本〔1日目〕 18:00~19:30 第49回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		17:00 消化器疾患カンファレンス C
13日(木)	9:00~14:30 日本医療マネジメント学会主催 平成19年第1回クリティカルパス実践セミナー in 熊本〔2日目〕 18:30~20:00 病薬連携研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
14日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
15日(土)			10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
18日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
19日(水)	19:00~21:00 第82回 最新医学の知識講座 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本大学大学院医学薬学研究部環境保健医学教授 上田 厚 「環境医学分野における健康影響評価(Health Impact Assessment)の最新知見」 久留米大学医学部環境医学教授 石竹 達也		17:00 消化器疾患カンファレンス C
20日(木)	19:00~20:45 第72回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
21日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
26日(水)			17:00 消化器疾患カンファレンス C
27日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
28日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 学校 看護学校  
 問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター-地域医療研修センター  
 TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)